

リニアは夢の乗り物か？

ストップリニアニュース No.47

発行：2018. 4. 10 リニア新幹線を考える相模原連絡会 <http://sagami-hara-g.mond.jp/>

川勝静岡県知事

リニア工事自体が無謀。白紙撤回もやむをえない。

2017年11月30日(木)静岡県知事記者会見

昨年11月30日に、川勝静岡県知事は定例の記者会見の席上で強引にリニア中央新幹線の工事を進めようとしているJR東海の姿勢を厳しく批判しました。

—記者の質問に回答して—

<前略> 利水者および県がJR東海に求めているのは、トンネル湧水の全量を恒久的かつ確実に大井川に戻すことでもあります。本年4月3日付け知事意見書に明記した通り、本県境界内で発生するトンネル湧水は、貴重な水資源の賦存量の一部でございますので、トンネル湧水の全量を大井川に戻すことは、当然の利であります。県としましては、これまで長い時間と労力をかけて、JR東海と下流の利水者との協定締結に向けた調整を行ってきました。しかし、社長自らが全量の定義が分からないという認識であれば、協定は白紙撤回もやむをえないという、そういう姿勢でJR東海の柘植社長への認識を問うたということでもあります。

—別の記者の質問に答えて—、具体的に言うと、トンネルの工事が出る湧水、これは川に流れないわけですから戻すと、それに尽きますね。それをこちらから言われて初めて分かったということじゃないですか。そもそも、そういう認識ですもんね、工事をやっていたということで、しかも約束もしなかったと、半年以上ですよ。4月末まで待ったわけです。なおかつ延ばしてきたということで、私は10月の会見ですもんね、もうこういう工事をする事自体が無謀だと。<後略> (松本)



川勝静岡県知事

<鳥屋情報>

「車両基地の鳥屋にリニア駅の設置は？」の質問に
JR東海は「考えていない」と明確に否定

2016年8月4日の、JR東海神奈川工事事務所とリニア新幹線を考える相模原連絡会の交渉で、鳥屋にリニア車両基地を建設し、観光の目玉にしようという話が出ているが実態はどうかと質問すると、JR東海の回答は否定的でした。

質問： 相模原市長が、国土交通省に「鳥屋車両基地に駅設置をJR東海に働きかけるよう」要望しているが、JR東海の見解は

回答： 法的にも、技術的にも考えていない

相模原 リニア車両基地の計画地



反対派市民が森カフェ作り

4月14日付 東京新聞より

～リニアストップ！新緑のつどい～

日時 5月26日(土) AM11～PM3. (予定) 場所 鳥屋 小島久男宅庭園

(感想) 森カフェづくりに参加して

初めてトラスト森のカフェ造りに参加させていただき、木を削る作業など普段経験できない貴重な体験をすることが出来ました。また、多くの方と交流でき、リニアを含め地元の情報や普段のお仕事の話など、知らないことを知る良い機会になりました。将来ここで、様々なイベントが行われて、多くの笑顔が生まれる場所になることを願っています。来年??の完成が楽しみです。(〇)

藤野で大鹿村からの報告会

— 自然環境や生活環境破壊への危惧！ —

3月24日、緑区小淵の藤野中央公民館で「長野・大鹿村で起きていること」と題する、大鹿村からの報告会が行われました。

リニア新幹線を考える相模原連絡会の藤野地区のメンバーが中心になって開催したものです。当日は30名の方の参加がありました。

報告会は「残像～リニア新幹線と山の記憶」のドキュメンタリー映像の視聴と「大鹿の10年先を変える会」に所属して、リニアに反対する活動を行っている前島久美さんの報告の内容で行われました。

映像では南アルプスの麓の山村での人々の暮らしや自然景観、そこに生息する動植物などが写し出され、リニアが何を壊していくのかが浮き彫りにされました。また、前島さんからはリニア工事によって大鹿村で引き起こされる自然環境や生活環境破壊への危惧と、この間のJR東海、村、県、村民への働きかけなどの活動、これからの取組みとそれへの決意などが話されました。

南アルプスと大鹿村で起きていることを知ることで、改めてリニアの問題性を確認する報告会になりました。(河内)



お話をする前島久美さん
写真：樫田秀樹氏提供

JR東海はリニア工事実施計画(その2)の「事業説明会」を開くべき!

2014年10月にリニア中央新幹線(品川・名古屋間)が認可された。何となく手続きはそれで終わりだと思っていた。ところが、去年9月、JR東海は、工事実施計画(その2)の認可申請を国交省に提出し、この3月2日に認可された。ここでは主に電気設備を中心に申請をしていた。

これによると神奈川駅中心が名古屋方面に66m移動し、駅が東西に伸び、国道16号を渡った「かつや」までが駅となるようだ。また、町田市小山町から東橋本にかけて、リニアのトンネルが浅くなってしまふ。最大1.4m浅くなり、最も浅いところの土かぶり13mとなる。トンネル真上に住む方はたいへん不安だと思う。

鳥屋の車両基地に変電所がつくられることも明らかになった。去年の秋に、東京電力は車両基地に向けて新設の送電線2ルート建設を発表している。

2014年の認可の後、JR東海は事業説明会を数多く開いている。その中では全く触れていない施設が新たに公表されているのだから、説明は絶対必要だ。今回の認可を受けて、JR東海は事業説明会を開くべきだ。(河村)

近隣でも大深度地下使用の説明会が行われます。

JR東海は3月20日に「大深度地下使用」の認可申請理解を深めてもらうため、と説明会を開催予定

場所：鶴川市民センター ホール 日時：5月14日(月) 18:30～
(町田市大蔵町 1981-4、バス停「市民センター入口」徒歩5分)

場所：忠生市民センター ホール 日時：5月16日(水) 18:30～
(町田市忠生 3-14-2、バス停「根岸」下車徒歩2分)

場所：麻生市民館 大ホール 日時：5月18日(金) 18:00～
(川崎市麻生区万福寺 1-5-2、小田急新百合ヶ丘駅・北口徒歩3分)

ー リニア利権が地域の生活環境をこわす ー

相模原連絡会、地検捜査が終わるまで工事は中止せよとの申し入れを行う

リニア工事大手ゼネコン4社の談合が発覚し、東京地検特捜部による『独禁法違反』で逮捕者が出る中、リニア新幹線を考える相模原連絡会は去る2月13日、“全容解明まで、JR東海は一切の工事、契約交渉を中止せよ”との申し入れ書をJR東海（相模原工事事務所）に提出しました。しかしJR東海はその場で“当社は談合とは関係なく工事を進めていく”と言い放ちました。

また、相模原市と神奈川県へも同時に“一切のリニア事業への協力は中止せよ”との『申し入れ書』を提出しましたが、いずれも“事件とは関係なく必要な協力を進めていく”との旨の文書回答でした。

JR東海の傲慢性と、権力にすり寄る“地方自治体”の姿勢は現国会での森友文書改ざんの官僚と政権一体化したごまかし体制に通底しています。この不当性を訴訟と運動に連帯して、更に世論に訴えたいと考えます!!（浅賀）

ストップ・リニア！訴訟、第9回口頭弁論行われる

町田と相模原から3人の方が陳述、シンポジウムも行われました

3月23日東京地裁で、ストップ・リニア！訴訟の第9回口頭弁論が開かれました。

午後2時からの傍聴券抽選には多くの希望者が列を作り傍聴席はこの日も満席でした。

3人の原告が意見陳述しました。町田でシイタケ栽培をしている森和幸さんは、井戸水が枯れれば営業ができなくなると訴えました。橋本の桜井真理さんは、JR東海のいい加減な説明に対するトンネル真上や駅予定地に住む地権者850人や、周辺住民が訴える不安や怒りの声を紹介。浅賀きみ江さんは、市民の“心のオアシス”にもなっている県立相原高校移転の問題点を指摘しました。

3人の原告はスライドを使いながら、地域の生活や市民の権利を奪うリニア工事の中止を求めて訴えました。今回で原告側の意見陳述がひとまず終了しました。

裁判の後、16：30から議員会館内で第4回シンポジウム『沿線住民の意見陳述の意義と今後の展望』が開催され約100人が参加しました。

弁護団の関島保雄共同代表は、リニア関連施設（軌道、車両基地、変電所、駅、非常口など）の位置や設計図などが具体的でないのに環境アセスを短期間で行ったのは環境影響評価法違反であると報告。横山聡事務局長は、「損害賠償裁判ではないので、是非サポーターを増やすよう努力してほしい」と述べ、和泉貴士事務局次長は、認可の元になった中央新幹線小委員会の20回の審議を再検証し、審議経過を詳細に分析して今後の訴訟に活かす考えを明らかにしました。（建部）



今後のリニア訴訟日程 被告＝国土交通省（JR東海）の反論

6月25日（月） 14：30～

地裁前集会 13：15より

9月14日（金） //

11月30日（金） //

場所はいずれも東京地方裁判所です、抽選が14：00より行われます

極めて自分勝手な事業の進め方は許せない！

JR 東海に翻弄された日々、非常口工事ヤード隣接のAさん

初めてJR 東海が我が家にやってきたのは2017年3月の事でした。

JR 東海2名、神奈川県職員2名でやってきました。

我が家は80代の両親が4つの畑で農作業を営みながら平和に年金暮らしをしている家庭です。

「こちらの土地はリニアの工事口に決まりましたので測量させてください。」と一方的なリニア工事計画の説明であった。この地域は横浜市民の水源でもある道志川水系の水源であり、水源涵養林が国道413号線の近くまで迫る山あいの土地である。この山の地下にリニアの回送線が車庫に向かうトンネルと工事口(非常口)までの斜坑(トンネル)を掘るとの説明であった。

概ねの事は報道で知っていたが、どうして我が家の敷地なの？との疑問が湧いた。母屋のすぐ隣に「火薬保管庫」を設置する工事計画図を持参して、話の中身は一方的な理由の説明であった。

この後、1か月毎に事業用地の譲渡交渉が進んだ。24時間の土砂搬出工事が行われるとの説明から、このままこの場所に住み続ける事は困難と判断し、我が家は事業に協力して移転をすることにした。

ただしJRへの条件は、国道反対側の農地(二人が生活するのに必要な土地)も併せての譲渡であり、JRは「検討する」との返事だった。

すでにJRから代替地は用意しないとの意向を伝えられていた。移転先の土地検索、墓地の移転検索、リニア実験線の見学、物置整理など、移転に向けた準備と共に、長年住み慣れた土地を離れる心労に悩まされる日々であった。

こんなにいろいろな面で苦労した月日ではあったが、2018年の年明けにこちらからJRに連絡をとってみると、「工事の事業用地からAさんの土地は外した」との告知があり、激しい憤りを感じている。

父親は80年以上住み慣れた土地を明け渡す事を覚悟し、いろいろと思い悩んでいたようである。

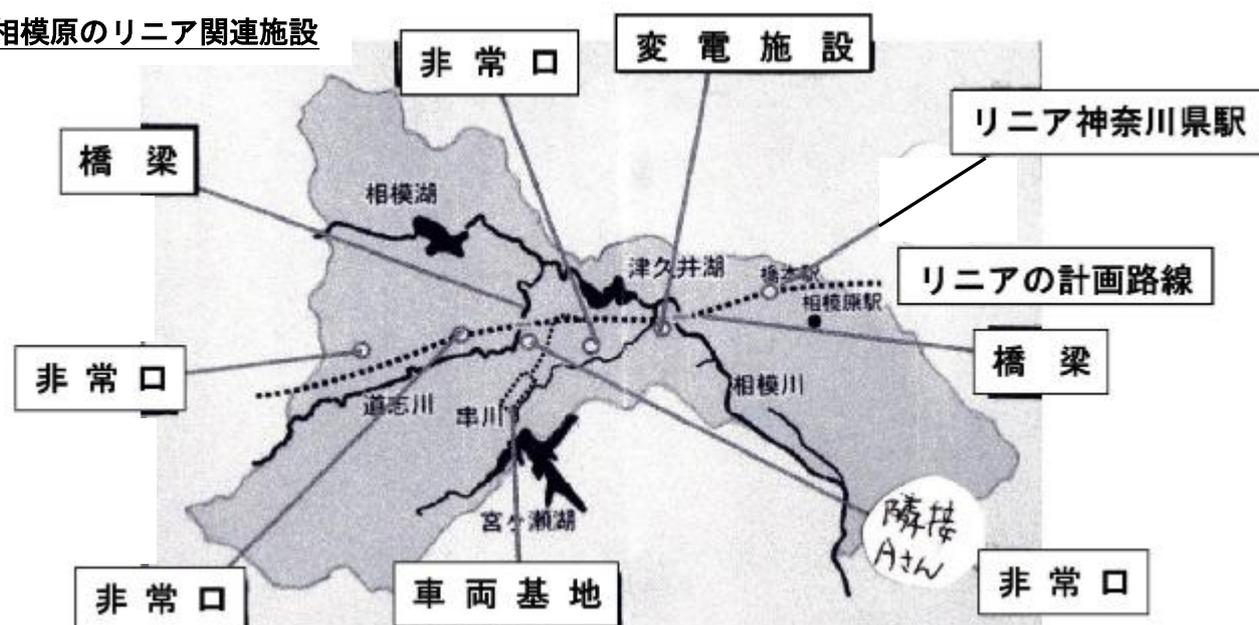
「JR 東海サービス相談室」に苦情を申し出て、改めて説明にやってきた新任の4人は平然と言いつつ、「計画が変更になった。どのように変更になったかはお話しできない。」これが日本を代表する企業が進める国家の支援を借りて進める事業の実態である。

許せない。

先日こんな事業用地取得交渉なのに、国土交通大臣は先日の国会で「丁寧に対応する」と回答している様だが、あまりにも現場を知らないお粗末な国会答弁にあきれてしまった。

この国の民主主義政治、どんどんおかしくなっているような気がする。(A)

相模原のリニア関連施設



お願い

★ 活動はみなさまのカンパで維持しています、ぜひご協力をお願いします。

郵便振替口座:00240-7-71305

口座名:リニア新幹線を考える相模原連絡会

発行者:代表 浅賀きみ江 相模原市緑区東橋本 2-6-2 携帯 090-4378-9257